

令和8年度第1回 朝霞市都市計画審議会に関する調整会議 次第

日時 令和8年5月29日（金曜日）

午後2時から

場所 朝霞市役所 別館5階 大会議室（手前）

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 委員の委嘱
- 4 会長の選出及び職務代理者の指名
- 5 議 題
 - ・朝霞市都市計画マスタープランの策定について
- 6 閉 会

5つの地域の違いの整理 <都市マス本編への整理イメージ>

1. 前回都計審で頂いたご意見とその対応について

■前回都計審で頂いたご意見

- 前回都計審では、5つの地域の違いを表現する方法として、「地域の特徴」と「地域の方針」をそれぞれ表現するパターンを提示したが、それぞれの因果関係がわかるよう、どちらかではなく2つのパターンを表現すること。
- 整理する際には、できるだけシンプルに各地域の違いを表現できるよう見せ方の工夫を意識すること。

■5つの地域の違いを表現する方法（案）

- テーマごとに各地域の特徴を表すキーワードを設定し、各キーワードに対する地域の状況を分かりやすく見せることを意識し、星取表形式で整理した。
- 地域の特徴を表すキーワードに対して、その特徴が地域にあるのかを「○：ある」、「－：ない」で整理し、必要に応じて文言を追加した。
- キーワードで表現しにくいものは、「その他」の欄に文言で表現した。

⇒冊子での整理イメージは次頁を参照ください。

(参考) 5つの地域の違いの整理に対する前回都計審でのご意見とその対応

ご意見（要約）	対応方針
（高橋委員）パターン①とパターン②の両方が整理されていると良い。特徴と方針の因果関係がわかりやすい。全て網羅しようとするボリューム感が出てしまうので、サマリーとして概要がわかる資料となっていれば良いと思う。	ご指摘を踏まえ、パターン①とパターン②の両方を整理する方向とし、本編 P62 部分に挿入する。 整理する際は、文章だらけにならないよう、シンプルに違いを表現するとともに、行間調整等により見せ方の工夫も意識した。 各地域の特徴においては、行と列に示す項目を逆に設定し、横並びで地域の違いを把握できるよう表現を工夫した。
（鈴木委員）地域ごとの方針が異なる理由が示されている方がわかりやすいため、パターン①の記載も必要である。	
（葭原委員）パターン①において、文章量が多くなることが課題であれば、文章ではなくキーワードの整理でも良いかもしれない。	
（大貫委員）短文で大まかなイメージを把握してもらおうと良い。今の文章は長い。	
（寺川委員）各地域の特徴の整理なく方針が出てくると唐突感がある。行間調整など見せ方の工夫で見た目を和らげることもできると思う。パターン②は補足的でよい。	
（須永会長）パターン①で示す文章は既に短くなっており、これ以上文章を削ってしまうと伝えたいことが伝わらなくなってしまうため難しい。 各委員の意見を踏まえ、両パターンを掲載する方針としてはどうか。行間調整などにより見せ方の工夫をするとともに、地域の違いを示す目的から、行列を逆に設定した方がよい。 各地域の特徴を絞って記載し「詳細は後述参照」と誘導する表現が適切である。	

2. 都市マス本編への整理イメージ

2 地域別まちづくり構想

地域区分の設定を受け、5つの地域のまちづくり構想を整理します。5つの地域のまちづくり構想は、「①地域の概況」と「②市民の想い」より「③地域のまちづくりの方針」を設定し、方針を踏まえ「④テーマごとに地域の特徴（良いところや課題等）に対応した取組」を整理しました。

以下に、各地域の特徴とまちづくりの方針のまとめを整理しました。特徴及びまちづくりの方針の詳細は後述の各地域のまちづくり構想をご確認ください。

■5つの地域の特徴

地域の特徴を表すキーワードに対して、地域にその特徴があるのかを「○：ある」、「－：ない」で整理しました。

		内間木	北部	東部	西部	南部
安全・安心	河川氾濫による想定浸水区域がある	○ 全域	○ 一部	○ 一部	○ 一部	○ 一部
	内水氾濫の発生リスクがある	○	○	○	○	○
	土砂災害の発生リスクがある	－	○	○	○	－
	延焼リスクのある住宅密集地等がある	－	○	○	○	○
	その他	・ 水害時の一時避難場所が限定的 ・ 緊急輸送道路が限定的				
自然・環境	優良な農地がある	○	○	○	○	○
	斜面林等のみどりがある	○	○	○	○	○
	良好な水辺空間がある	○ 荒川 新河岸川	○ 黒目川 新河岸川	○ 黒目川 新河岸川	○ 黒目川 新河岸川	○ 黒目川
	広場や公園がある	○	○	○	○	○
	歴史的文化資源がある	○ 内間木神社	○ 経塚	○ 旧高橋家住宅等	○ 川越街道	○ 川越街道
	更地や資器材置き場、産業廃棄物処理施設等がある	○	－	○	－	－
	その他		・ 農地の宅地化により緑が減少		・ 崖線の斜面林の減少	・ マンションの増加により緑の減少

		内間木	北部	東部	西部	南部
快適な移動	交通結節点がある	—	○ 北朝霞駅 朝霞台駅	○ 朝霞駅	○ 北朝霞駅 朝霞台駅	○ 朝霞駅
	都市計画道路の未整備区間がある	○	○	○	○	○
	公共交通空白地区がある	○	○	○	○	○
	市内循環バスが運行されている	○ ワゴン車	○	○	○	○
	シェアサイクルポートがある	○	○	○	○	○
	橋梁等の老朽化が進行している	○	○	○	○	○
	交通安全対策の強化の必要性がある	○	○	○	○	○
にぎわい・活力	商業系用途地域が指定されている	—	○	○	○	○
	地区計画による商業・業務空間の充実に向けた取組が進められている	—	○	—	○	—
	商店街がある	—	○	○	○	○
	工業系用途地域での住工混在がある	—	—	—	○	○
	その他	・ 全域が市街化調整区域 ・ 国道 254 号バイパス沿道整備	・ 浄水場の立地	・ 黒目川沿いに医療施設や大学等が立地 ・ 国道 254 号バイパス沿道整備	・ 企業が多く立地	・ 駅周辺の公共空間を活用したイベントが継続的に開催
私らしい暮らし	延焼リスクのある住宅密集地等がある	—	○	○	○	○
	旧暫定調整区域がある	—	○	○	—	—
	生活を支える公共性の高い施設がある	○	○	○	○	○
	地区計画を活用したまちづくりが進められている	—	○ 旧暫定駅周辺	○ 旧暫定	○ 駅周辺	○ 基地跡地
	その他	・ 資材や残土置き場による周辺環境の悪化	・ 浄水場の立地	・ 資材や残土置き場による周辺環境の悪化	・ 駅と黒目川の連携強化	・ 公園が多く分布

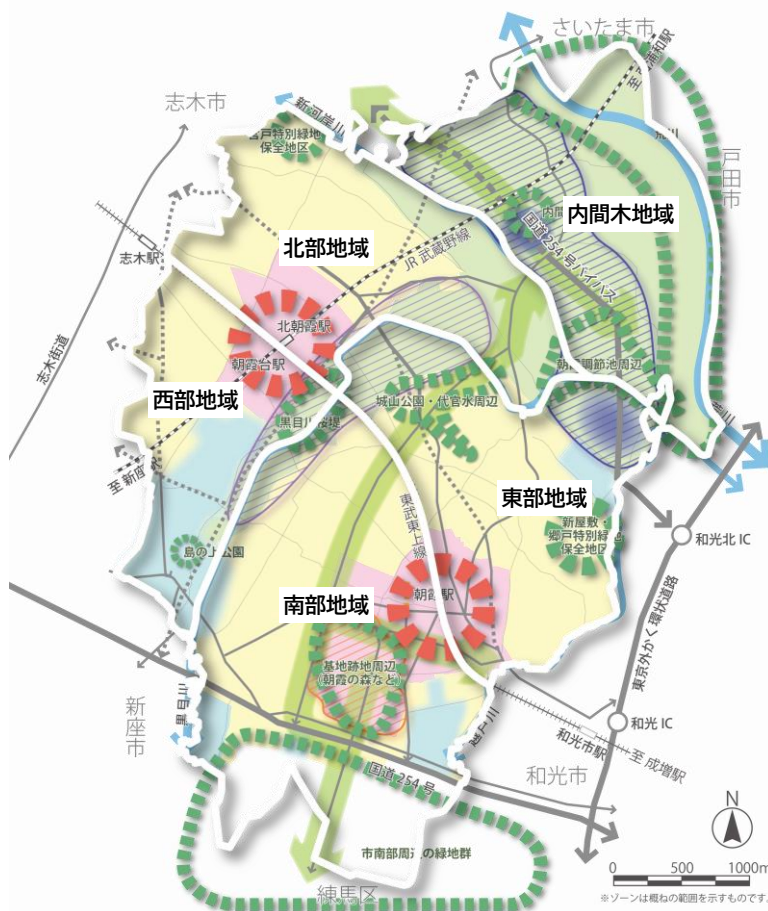
■ 5つの地域のまちづくりの方針

北部地域の方針

- 【1】地震・火災による延焼リスクや水害による浸水リスクを地域と共有し、低減するための対策の充実を図ります。【安 暮】
- 【2】駅周辺では計画的な土地利用の誘導に加え、朝霞台駅の建替や北朝霞駅北口広場の人中心の広場への転換等の契機を生かし、誰もが安心して過ごせる空間づくりを推進し、官民連携によるにぎわい形成を図ります。【移 に 暮】
- 【3】駅や市街地の近くに黒目川等による水辺空間や、農地やみどりによる豊かな自然が残されている特徴を生かし、自然と生活環境のつながりの強化により地域への愛着を高めます。【環 暮】

内間木地域の方針

- 【1】水害による浸水リスクや交通安全に関する対策の充実により、誰もが安全・安心に過ごせる環境を確保します。【安 移 暮】
- 【2】荒川や新河岸川といった河川や農地等のみどりが残る豊かな自然環境を適切に維持・管理します。【環 暮】
- 【3】国道254号バイパスの整備による沿道土地利用のポテンシャルや朝霞水門、調節池等の地域資源を生かした地域の活性化を図ります。【に 暮】



東部地域の方針

- 【1】水害対策等、安全なまちへの取組を実施しながら、農地や斜面林等のみどりが残る静かな居住環境を維持し、その資源の有効活用により地域力の強化を図ります。【安 環 暮】
- 【2】朝霞駅周辺や国道254号バイパス沿道ではそのポテンシャルを生かし、メリハリをつけてにぎわい形成を図ります。【に 暮】
- 【3】移動の目的に応じた多様な移動手段の確保により、誰もが移動しやすい環境を創出し、居住と産業が共存した地域を目指します。【移 に 暮】

南部地域の方針

- 【1】地震・火災による延焼リスクや水害による浸水リスクの低減に向けた対策の充実と、交通安全対策の強化により、誰もが安全・安心に生活できる住環境を整えます。【安 移 暮】
- 【2】黒目川の水辺空間や基地跡地等のみどりが残る豊かな自然環境や、川越街道の歴史的文化的資源等の適切な維持管理・活用を図ります。【環 に 暮】
- 【3】朝霞駅や基地跡地周辺の充実した都市機能や公共空間を生かし、官民連携による一体的なにぎわいや活力の創出を図るとともに、地域内に立地する企業等との連携・協働による地域経済活性化に向けた取組を推進します。【に 暮】

西部地域の方針

- 【1】地震・火災による延焼リスクや水害による浸水リスクの低減に向けた対策の充実を図ります。【安 暮】
- 【2】黒目川の水辺空間（桜並木等）や農地・緑地のみどりが残る良好な居住環境の維持・活用を図ります。【環 暮】
- 【3】駅周辺への都市機能の集積や企業・工場が立地している特性を生かし、民間企業と地域との連携強化と、利便性の向上やにぎわいの創出を図ります。また、人と人、人とお店や企業、自然と地域等のつながりの強化により、新たな発見やにぎわいが生まれる地域づくりを行います。【移 に 暮】

評価指標の見直しの方向性について

○前回都計審で頂いたご意見と見直しの方針

■前回都計審で頂いたご意見

- 都市マスの評価・進捗管理は、3つの指標「市民満足度指標、将来目標指標、進捗管理指標」で行うこと。
- 「進捗管理指標」が、その上の「将来目標指標」及び「市民満足度指標」を押し上げるよう貢献できる指標になっているか、そのつながりを意識して指標を選択し、それを説明できるようにすること。
- 「進捗管理指標」は、今後5年間で力を入れていく主な取組をもとに選定されているが、できることを指標化するのではなく、「目標を達成するために一生懸命やっていく中で、モニタリングしておくべき指標は何なのか」、「目標から逆算したときに、必要な取組を適切に評価できる指標は何なのか」という観点で指標を再度見直すこと。

■評価指標の見直しの方針

前回都計審でいただいたご意見を踏まえ、以下のような作業方針で評価指標の見直しを行います。

- 3つの指標（市民満足度指標、将来目標指標、進捗管理指標）のつながりを意識する。
- 指標の性格（取組をどれだけ実施したかを測るものか（アウトプット指標）、取組による効果を把握するものか（アウトカム指標））を意識的に使い分ける。

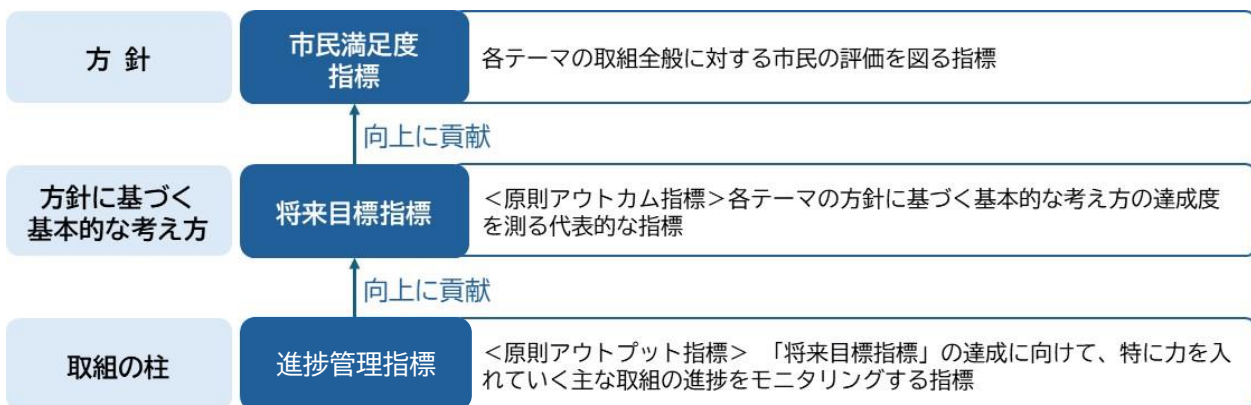
※アウトプット指標、アウトカム指標とは…

アウトプット指標	取組を「何を・どれだけどれだけ実施したか」を示す 例：新設した公園の数、設置した街路灯の数、舗装した道路の延長など
アウトカム指標	取組により「社会や暮らしにどのような変化・成果をもたらしたか」を示す 例：公園利用率の向上、夜間の犯罪発生率の低下、交通渋滞の緩和度合いなど

■将来目標指標と進捗管理指標の設定の考え方

それぞれの評価指標を見直していく考え方は以下のとおりです。

- 「進捗管理指標」を高めることがその上位にある「将来目標指標（中期）」、さらに最上位の「市民満足度指標（長期）」の向上へと段階的に貢献していく連動構造とする。
- 「将来目標指標」は、各テーマの方針に基づく基本的な考え方の達成度を測る代表的な指標であり、原則**アウトカム指標**（どのような変化・成果が生じたか）となるよう設定。
- 「進捗管理指標」は、将来目標指標の達成に向けて、特に力を入れていく主な取組の進捗をモニタリングする指標であり、原則**アウトプット指標**（取組をどれだけ実施したか）となるように設定。



■将来目標指標

<将来目標指標とは…>

指標の考え方	各テーマの方針に基づく基本的な考え方の達成度を測る代表的な指標です。 極力アウトカム指標を用います。
評価の方法 ・取得頻度	目標年次である20年間を見据え、達成すべき指標を設定します。 少なくとも5年ごとに評価を行い、達成状況を把握します。
目標設定の考え方	20年後という長期的な目標であり具体的な数値目標の設定は困難であるため、「増加」や「減少」などの向かうべきベクトルを示す目標設定とします。 ※政治や社会情勢等の変化による影響を受けない指標が望ましい。

<将来目標指標を設定する際の視点>

- 20年後を見据え、設定された指標が「方針に基づく基本的な考え方」が達成された状態を表現できているか。
- 指標の達成が各テーマの方針の実現、市民満足度指標の達成につながっているか。
- 5年ごとの達成状況の把握は可能か。
- 政治や社会情勢等の変化により著しい影響を受けるような指標になっていないか
- 主に都市計画分野の政策を評価する指標であるか

■進捗管理指標とは

<進捗管理指標とは…>

指標の考え方	「将来目標指標」の達成に向けて、特に力を入れていく主な取組の進捗をモニタリングする指標です。 極力アウトプット指標を用います。
評価の方法 ・取得頻度	毎年調査を行い、進捗状況を把握します。
目標設定の考え方	各指標に関係する担当部署との調整により、5年後に目指す具体的な数値を設定します。 取組の進捗状況等に応じて、5年ごとの見直しを想定します。

<進捗管理指標を設定する際の視点>

- 指標の達成が「将来目標指標」及び「市民満足度指標」につながっているか。
- 「将来目標指標」の達成に向けて、当面5年間で“優先度”の高い取組をモニタリングできる指標になっているか。
- 毎年の進捗状況の把握は可能か。また、5年間で定量的な変化を見込めるか。
- 都市計画分野の取組の進捗を測る指標であるか。

■ テーマ「安全・安心」の評価指標検討

〈方針〉

日常生活のなかで災害が発生しても、被害を最小限に留め、素早く確実に復旧できる、防災・防犯ともに備えができていて安全・安心に暮らせるまちを目指します。

市民満足度指標 【安全・安心】の方針に示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づく基本的な考え方〉

1 災害に強い都市基盤を整える ※前回から変更しました

将来目標指標

防災上のリスクの高い地域(※)の減少

※浸水深1m以上、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域、住宅密集地に該当するエリア

2 災害が発生しても円滑に復旧できる準備を整える

将来目標指標

計画どおり整備された緊急輸送道路の整備率の増加

3 日頃の暮らしから、災害・犯罪・事故に備える ※前回から変更しました

将来目標指標

「生活道路の安全確保」の取組に対する満足度

〈取組の柱〉

① 災害リスクの低減・回避

② インフラの強化

③ 災害に強い生活環境への改善

④ 災害時の核となる防災拠点の形成

⑤ 避難・救助しやすい道づくり

⑥ 物資や人を運びやすい道づくり

⑦ 日常から災害に備えるまちづくり

⑧ 犯罪や事故の芽を摘む環境づくり

⑨ 共助の体制強化

〈進捗管理指標5年(10年)を見直しを想定〉

進捗管理指標 (R12年度目標)

【水災害】
雨水貯留施設の整備量 (m³)

【住宅密集地】
建築確認の件数 (件)

進捗管理指標 (R12年度目標)

緊急輸送道路の整備実施延長 (km)

進捗管理指標 (R12年度目標)

道路照明灯の設置件数 (本)

防犯灯補助金交付件数 (件)

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

- 災害リスクの低減・回避に向けた取組により防災上のリスクの高いエリアが減少することにつながるため

○進捗管理指標

【水災害】

- 河川氾濫の抑制や浸水被害低減の効果が期待できるため
- 【住宅密集地】
- 現行の防火や耐震基準に適合した建築確認の件数の増加は、地域の不燃領域の増加につながり、住宅密集地の解消にもつながるため

○将来目標指標

- 緊急輸送道路に指定されている都市計画道路の整備推進により道路閉塞の懸念が解消されることで、災害発生時に円滑な復旧が阻害されず、素早く確実な復旧ができるため

○進捗管理指標

- 緊急輸送道路を整備することで、災害発生時に被災地への救援物資や支援部隊の迅速な搬送が可能となり、復旧活動のスピードアップにつながる。年度ごとに整備する延長を積み上げることで、将来目標指標である緊急輸送道路の整備率を押し上げることににつながるため

○将来目標指標

- 生活道路の安全確保を進めることで、災害時の避難のしやすさや、夜間を含めた犯罪や事故の発生抑制にもなり、日頃の「もしも」にも効果が期待できるため

○進捗管理指標

- 道路や公共空間における適切な照度の確保は犯罪や交通事故の発生抑制の効果が期待できるため
- 防犯灯設置により犯罪や交通事故の発生抑制の効果が期待できるだけでなく、町内会等地域コミュニティを支援することで、民間と行政の連携強化が期待できるため

〈その他の指標候補案〉

○将来目標指標

- 自然災害による死者数ゼロ

○進捗管理指標

【水災害】

- 避難施設からの徒歩圏カバー率
- 【密集市街地】
- 住宅密集地エリアにおける不燃領域率

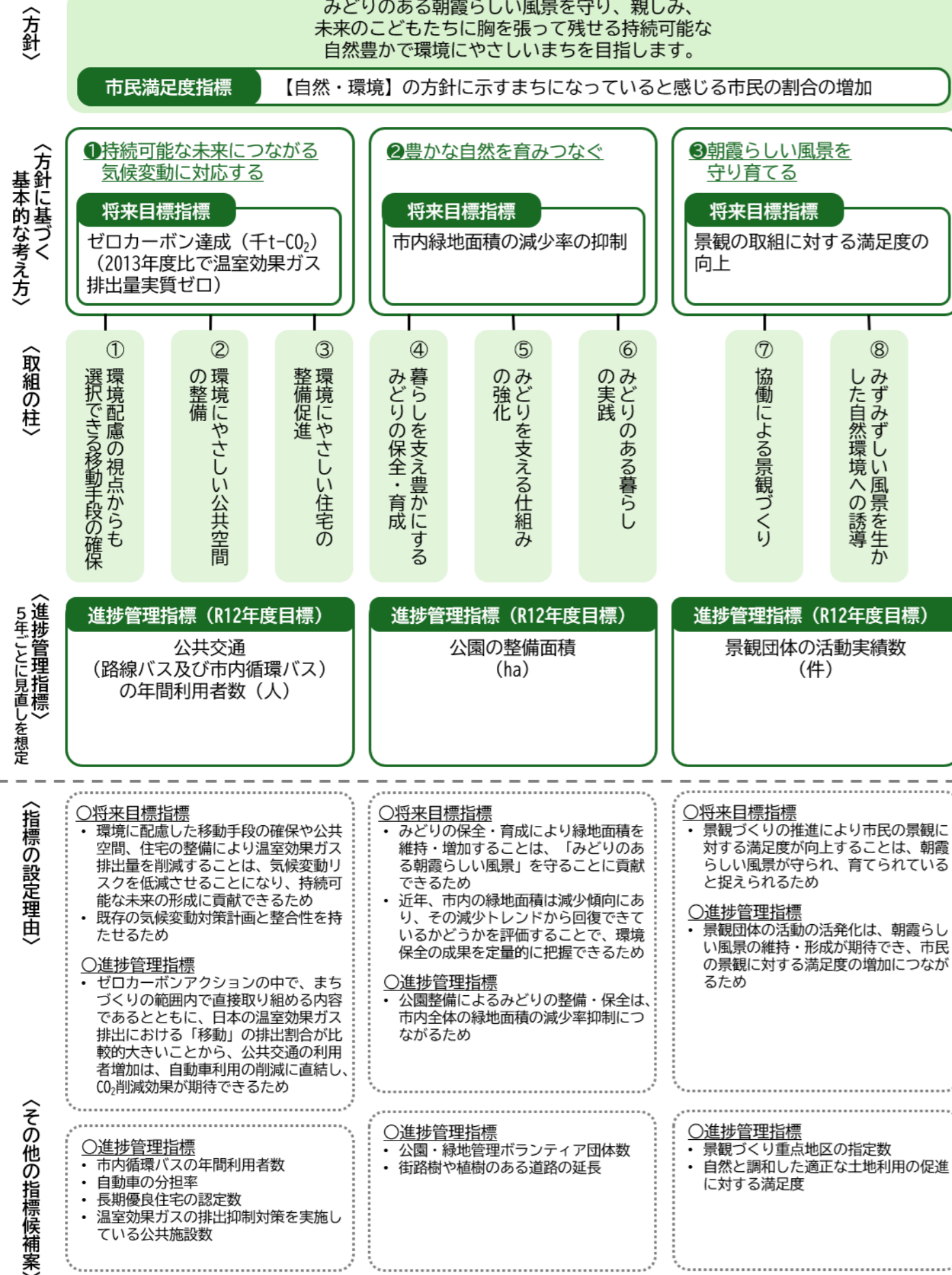
○進捗管理指標

- 所有者不明の管理不全空き家等の数
- 自主防災組織の結成率

<評価指標に対する前回都計審でのご意見とその対応>

指標	3月都計審時点での指標案に対するご意見と対応 (青字)
将来目標指標	<p>①災害に備える 【指標：防災上、危険性が懸念される地域に居住する人口の割合の減少】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(大貴委員) 指標の数値化は可能か。 ⇒可能である。防災上のリスクの高い地域(浸水深1m以上のエリア、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域に該当するエリア、住宅密集地に該当するエリア)にかかるメッシュ人口の合計により算出することを想定していた。 ※河川氾濫等の広域にわたる災害リスクに対しては、特定の自治体単独では対応が難しいため、流域治水の取組など関係する市町村を巻き込み、国・県が主体となって対応している。 ・(鈴木委員) 記載の将来目標に沿った取組を実施すると、指定地域の増加に伴い、人口割合が増える。(指定地域の住民に引っ越してもらう場合は別) あるべき姿として、「現状の防火・準防火地域が設定されている理由を改善し、指定地区の面積解除を進める」ことが考えられ、これによって懸念される地域に居住する人口割合の減少に繋げるべき。 ⇒「防火・準防火地域」の指定は、建築物の不燃化・耐火性能向上を促進し、延焼危険性の低減を図ることを目的としている。したがって、本取組は、危険性が懸念される地域に居住する人口割合を単純に増加させるものではなく、地域全体の防災性向上に寄与するものである。また、防火・準防火地域は、将来的な市街地形成や災害時の延焼防止等を踏まえて指定していることから、不燃化が一定程度進んだ場合であっても、直ちに指定解除を行うことは想定していない。
	<p>②災害が発生しても円滑に復旧できる準備を整える 【指標：都市計画道路のうち無電柱化された路線数及び防災拠点の増加】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(大貴委員) 指標を「都市計画道路の整備率」とするのはいかがか。 ・(田辺委員) 指標として「都市計画道路、優先整備路線の用地確保」としてはどうか。 ⇒ご提案頂いた指標は取組の進捗を管理する指標であり、将来目標指標としては取組実施による効果を測る指標を設定した。前回提示した指標も同様に取組の進捗を管理する指標であったため見直した。
進捗管理指標	<p>③日常の生活から「もしも」を見据えた環境をつくる 【指標：市内における人口1,000人当たりの刑法犯認知件数の減少】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(寺川委員) 「日頃の生活から『もしも』を見据えた環境をつくる」の「もしも」は、生活のなかで発生するような屋内での落下物やタンスの転倒なども含まれているのか。「もしも」の範囲が読み取れない。 ⇒日常から災害や事件、事故に対する「もしも」の備えを対象としている。認識の違いを生まないため「基本的な考え方」の文言を「日頃の暮らしの中で」に表現を見直した。 ・(田辺委員) 指標として「歩きやすいまちづくり環境の整備」としてはどうか。 ⇒ご提案頂いた指標は、日常の歩行空間の質を高めることが災害時の避難のしやすさにもつながるという意味で、日頃から「もしも」を見据えたわかりやすい指標である。一方で、定量的に評価することが難しいことから、市政モニターアンケートの類似する調査項目を採用した。
	<p>①災害に備える 【指標：防火・準防火地域の新規指定地区数：0地区→1地区】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(葭原委員) 「市内給水の基幹管路の耐震化率」とするのはいかがか。 ・(田辺委員) 指標として「上下水道管の耐震化率(柱②)」や「管理不全空家等の減少(柱③)」も考えられる。 ⇒「市内給水の基幹管路の耐震化率」や「上下水道管の耐震化率」、「管理不全空家等の減少」については、災害対応力の向上に資する重要な取組であると認識している。一方で、本方針における「災害に強い都市基盤を整える」の進捗管理指標については、インフラ強化そのものよりも、災害リスクの高い地域における被害の未然防止やリスク低減・回避に直接つながる取組を優先して設定している。このため、ご意見の指標については、今後の関連計画や個別施策の進捗管理において参考としたい。 ※上下水道管のうち、幹線となるものは耐震化済みである
進捗管理指標	<p>②災害が発生しても円滑に復旧できる準備を整える 【指標：都市計画道路の整備率：54%→56%】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(大貴委員) 比較的重要かつ実効性があり、指標として出来るのは豪雨による道路冠水件数の減少(道路改良、排水設備)だと思う。 ・(葭原委員) 「幅員6m未満道路拡幅率」とするのはいかがか。 ・(田辺委員) 指標として「公園の整備(柱④)」や「防災・避難道路の確保(柱⑤)」、「優先整備路線の整備面積(柱⑥)」も考えられる。 ⇒指標設定の候補として検討したが、将来目標指標とのつながりを考慮し左記の指標を設定した。
	<p>③日常の生活から「もしも」を見据えた環境をつくる 【指標：所有者不明の管理不全空き家等の数：10件→5件】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(大橋委員) 詳細な調査を行えば把握できる件数が増えるのではないか。 ・(大貴委員) 将来目標指標につながる重点アクションとして、道路照明灯や防犯灯の未設置区間を少なくすることを指標にすることが考えられる。 ・(鈴木委員) 「刑法犯認知件数を毎年2件減少させること」と「空き家軒数」の関連性がわかり難い。定性的には理解できるが、空き家が減っても犯罪は減らないこともあり得る。進捗管理指標とするならば、将来目標指標との関連性が明確なものを設定すべき。都市部における空き家率と犯罪認知件数の統計データなどがあれば良い。 ・(葭原委員) 「市内における刑法犯認知件数(埼玉県警)」とするのはいかがか。 ・(田辺委員) 指標として、「公園内の災害備品の整備(柱⑦)」や「道路照明、道路安全備品の整備(柱⑧)」、「市民アダプトの推進(柱⑨)」も考えられる。 ⇒頂いたご意見(道路照明の整備など)を踏まえ、将来目標指標とのつながりを意識し、左記の指標を設定することとした。

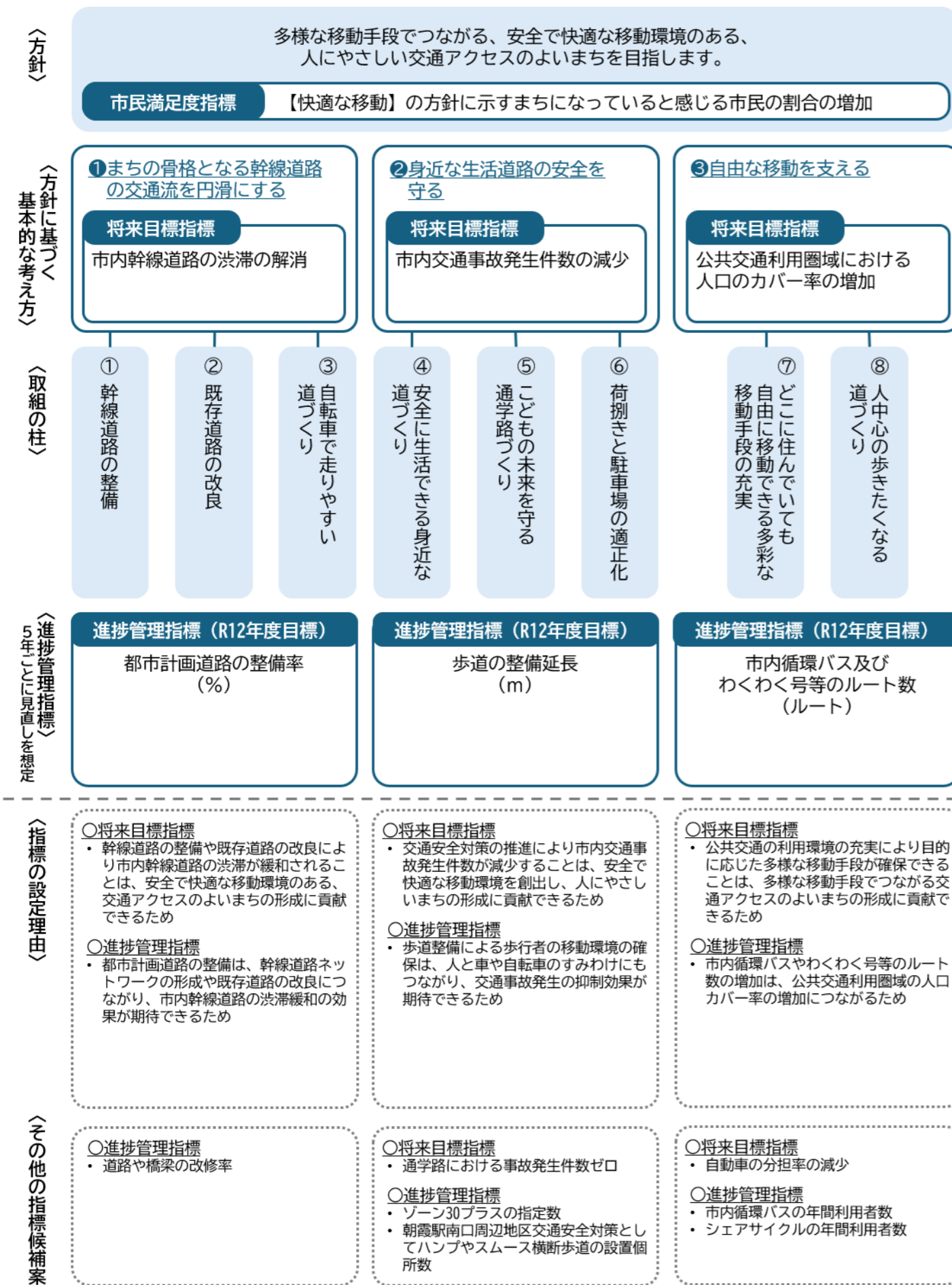
■ テーマ「自然・環境」の評価指標検討



<評価指標に対する前回都計審でのご意見とその対応>

指標	3月都計審時点での指標案に対するご意見と対応 (青字)
進捗管理指標	<p>①持続可能な未来につながる気候変動に対応する 【指標：市内循環バスの年間利用者数：374,299人→397,325人】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(大貫委員) 市内循環バスの利用率は、公共交通機関の一部のデータなので適切ではない。CO₂削減なのであれば、1名当たりのごみ排出量の減少やゴミ焼却量の減少、市内で発電される再生エネルギーの増加が考えられる。 ・(葭原委員) 「温室効果ガスの抑制対策を実施している公共施設数」とするのはいかがか。 ⇒ご意見のとおり、気候変動対策に関する指標については、ごみ排出量や再生可能エネルギー導入量など、多様な視点が考えられると認識している。一方で、本テーマの進捗管理指標については、都市計画分野との関連や「ゼロカーボンシティに向けた39アクションプラン」との連携も踏まえ、市として重点的に推進する環境負荷の低減に資する移動手段の確保の取組に着目し、自動車利用の削減に直結しCO₂削減効果が期待できる「公共交通(路線バス及び市内循環バス)の年間利用者数」を指標として設定した。 なお、「温室効果ガスの抑制対策を実施している公共施設数」については、公共施設に限定された指標になってしまうものの、公共施設における脱炭素化の進捗を把握する指標として有効であることから、候補案として位置付けている。
	<p>②豊かな自然を育みつなぐ 【指標：公園・緑地管理ボランティア団体数：24団体→29団体】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(大貫委員) 指標として、生垣の設置数や公園数の増加、保護地区や保護樹木の指定数の増加も考えられる。 ・(鈴木委員) ボランティア団体が多ければ緑地面積の増加につながるという根拠がわかり難い。ボランティア数だけ増えても活動実績が伴わなければ緑地面積の増加に繋がらないのではないかと。ボランティア団体に頼るのであれば、活動の面積(実績)などを集計するのはいかがか。 ⇒頂いたご意見を踏まえ、将来目標指標とのつながりや、都市計画部門が主体的に進捗管理できる指標であること等を考慮し、左記の指標を設定することとした。 ・(葭原委員) 「市内全域の緑被面積の割合」とするのはいかがか。 ⇒「市内全域の緑被面積の割合」については、市全体のみどりの状況や取組の成果を把握する指標として有効であると認識している。一方で、本テーマでは、将来目標指標として「市内緑地面積の減少率の抑制」を設定し、みどりの保全・創出による成果を把握する考え方とした。このため、「市内全域の緑被面積の割合」については、将来目標指標と趣旨が近い指標であることから、取組の進捗を管理する進捗管理指標を設定した。
	<p>③朝霞らしい風景を守り育てる 【指標：景観づくり重点地区の指定数：2地区→4地区】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(葭原委員) 「自然と調和した適正な土地利用の促進に対する満足度」とするのはいかがか。※市政モニターアンケートは避けたいがここはこれが最適と思う。 ⇒「自然と調和した適正な土地利用の促進に対する満足度」については、朝霞らしい風景の形成に対する市民実感を把握する指標として有効であると認識している。一方で、取組の成果や効果を示す将来目標指標に位置付けられるため、本方針における取組の進捗状況を客観的に把握できる進捗管理指標としての指標を設定した。

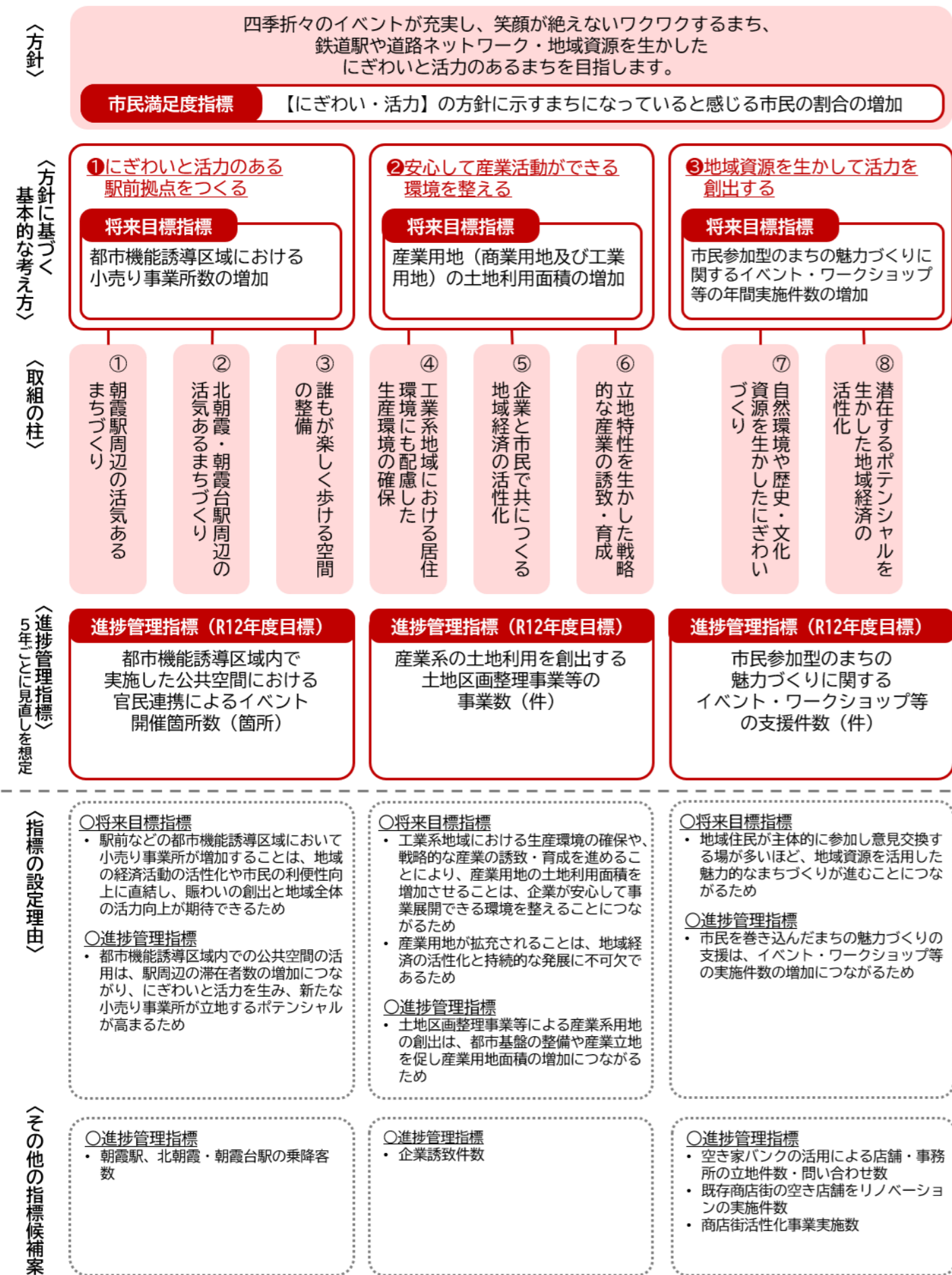
■ テーマ「快適な移動」の評価指標検討



<評価指標に対する前回都計審でのご意見とその対応>

指標	3月都計審時点での指標案に対するご意見と対応（青字）
将来目標指標	<p>①まちの骨格となる幹線道路の交通流を円滑にする 【指標：市内幹線道路の渋滞の解消】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（大貴委員）指標の数値化は可能か。 ⇒可能である。道路センサスにおける混雑度を活用することを想定している。
進捗管理指標	<p>⑥自由な移動を支える 【指標：市内循環バスの年間利用者数（再掲）：374,299人→397,325人】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（葭原委員）「公共交通空白地区の改善数」とするのはいかがか。 ⇒ご提案頂いた指標「公共交通空白地区の改善数」は、将来目標指標とのつながりがわかりやすい指標であるが、都市計画部門が主体的に進捗管理でき、ご提案頂いた指標と同様な効果が期待できる左記の指標を採用することとした。 ・（大貴委員）将来目標と同様で良い。達成目標を段階的に上げていく。 ⇒進捗管理指標については、将来目標指標である「公共交通利用圏域における人口カバー率の増加」と同一の指標を設定するのではなく、その達成に向けた具体的な取組の進捗を把握できる指標を設定する考え方とし、移動環境の改善に向けた取組を測る指標を事務局案として設定した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・（田中委員）シェアサイクルが日常の足として市民に利用されていることを強く実感するため、さらなる利用者数を見込んでいるのであれば、指標として取り入れても良いのではないか。 ⇒「③自由な移動を支える」の進捗管理指標の候補案として追加した。

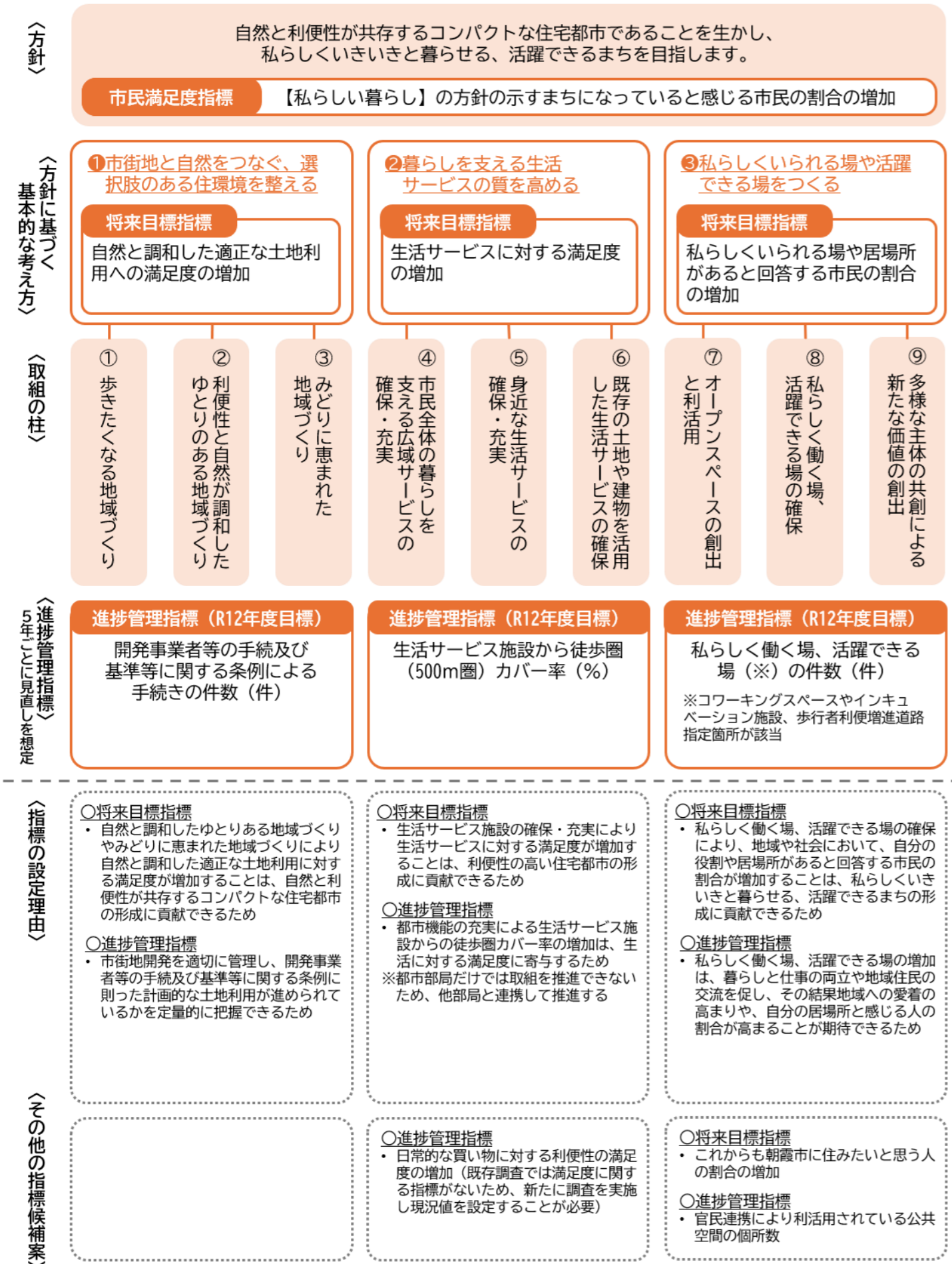
■ テーマ「にぎわい・活力」の評価指標検討



<評価指標に対する前回都計審でのご意見とその対応>

指標	3月都計審時点での指標案に対するご意見と対応（青字）
将来目標指標	<p>①にぎわいと活力のある駅前拠点をつくる 【指標：都市機能誘導区域における小売り事業所数の増加】に対する意見 ・（大貫委員）小売りに限定する必要があるのか。飲食業やサービス業の店舗も対象ではないか。 ⇒産業分類では「小売り」の中に飲食業やサービス業も含まれているため、そのまま採用した。</p> <p>②安心して産業活動ができる環境を整える 【指標：国道254バイパス沿道における企業誘致（内間木地域）に対する意見 ・（大貫委員）「工業系地域及び国道沿い地区における地区計画に基づく環境整備」とするのはいかがか。 ⇒ご指摘を参考にしつつ、定量的な評価ができるかどうかや、方針とのつながり等を考慮し、左記の指標を設定した。</p> <p>③地域資源を生かして活力を創出する 【指標：商店街における小売り事業所数の増加】に対する意見 ・（葭原委員）「あさかブランディングの確立（朝霞市の認知度、魅力度の向上）」とするのはいかがか。 ⇒市全体の認知度や魅力度については、都市計画分野の取組効果を直接的に把握することが難しいため、都市計画部門における取組との関係性を重視して設定する考え方として指標を設定した。</p>
	<p>①にぎわいと活力のある駅前拠点をつくる 【指標：滞在快適性等向上区域のまちなかベンチの数：7基→18基】に対する意見 ・（大貫委員）将来目標と同様で良い。達成目標を段階的に上げていく。 ・（鈴木委員）箱モノ行政に繋がりがかねない考え方だと思う。市内含め、使われている形跡の無いベンチ（汚れていて、座りたいと思えない）を見かける。ベンチの数が目的ではなく、ベンチ利用率の向上が賑わいに繋がると思う。 ・（葭原委員）「人口1000人あたりの小売事業所売場面積」とするのはいかがか。 ⇒ご指摘を参考にしつつ、都市計画部門が主体的に進捗管理する指標であることや、将来目標指標とのつながり等を考慮し、左記の指標を設定した。</p> <p>②安心して産業活動ができる環境を整える 【指標：工業系地域及び国道沿いにおける地区計画の地区数：2地区→3地区】に対する意見 ・（鈴木委員）地区数と件数が1対1であれば問題ないが、どの程度の誘致を見込んでいるかが地区数ではわかり難い。地区計画の面積の方が適切ではないか。 ⇒地区計画の面積については、取組規模を把握できる指標ではあるものの、個別事業の進捗や区域設定の影響を受けやすく、進捗管理指標として継続的・定量的に把握することは難しい。そのため、本テーマの進捗管理目標については、産業用地の創出により都市基盤整備や産業立地の促進につながる「産業系の土地利用を創出する土地区画整理事業等の事業数」を指標として設定した。 ・（葭原委員）「企業誘致件数」とするのはいかがか。 ⇒「企業誘致件数」については、産業立地や地域活力の向上につながる指標として、将来目標指標との関連性は高いものと認識しているが、企業誘致は景気動向や企業の経営判断、税制・補助制度など、都市計画分野以外の要素による影響も大きいことから、都市計画施策の進捗を直接的に把握する指標としては位置付けず、候補案の一つとして整理した。</p> <p>③地域資源を生かして活力を創出する 【指標：空き家バンクの活用による店舗・事業所の立地：0件→1件】に対する意見 ・（大橋委員）空き家バンクの活用による店舗の立地件数が少ない。毎年1件ずつでも5件になると思うので、せめて2～3件程度にするのはいかがか。 ・（大貫委員）指標として、彩夏祭（来場数）、人参及び派生加工品（売上）、黒目川（催し参加数）、出雲大社分院（来院数）、高橋家（来場数）、大柴翔／新内真衣／本田美奈子（何らかのランキング）が考えられる。 ・（鈴木委員）まずは1件としているが、0%か100%の間のない指標では進捗管理にならないと思う。空き家バンクの「問合せ数」や「調整まで至った数」、「マッチングできた数」などの段階毎に状況を見える化するのが良いと思う。 ・（葭原委員）「既存商店街の空き店舗を活用したリノベーションの実施件数」とするのはいかがか。 ⇒ご指摘を参考にしつつ、都市計画部門が主体的に進捗管理できる指標であることや、将来目標指標とのつながり等を考慮し、左記の指標を設定した。頂いたご意見はその他の指標候補として整理した。</p>
進捗管理指標	

■ テーマ「私らしい暮らし」の評価指標検討



<評価指標に対する前回都計審でのご意見とその対応>

指標	3月都計審時点での指標案に対するご意見と対応 (青字)
将来目標指標	<p>①市街地と自然をつなぐ、選択肢のある住環境を整える 【指標：これからも朝霞に住みたいと思う人の割合の増加】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(鈴木委員) 公園の整備状況に「住みたさ」は影響するが、最上位とは思えない。 ・(鈴木委員) 将来目標指標として、「これからも朝霞に住みたいと思う人の割合の増加」だと唐突感があるので、もう少し段階を踏んで「日常的な自然利用と職住近接が両立できていると感じる市民の割合の増加」とするのはいかがか。 ・(葭原委員) その他の指標候補の最終行から転用して「自然と調和した適正な土地利用への満足度の増加」とするのはいかがか。 <p>→ご指摘を踏まえ、定量的な評価ができるかどうかや、方針とのつながりを考慮し、葭原委員よりご提案頂いた「自然と調和した適正な土地利用への満足度の増加」を指標に採用した。</p>
	<p>②暮らしを支える生活サービスの質を高める 【指標：都市機能誘導区域における小売り事業所数の増加(再掲)】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(寺川委員) 各テーマで将来目標指標を掲げるのであれば、「再掲」はない方が良いのではないか。 →ご指摘を踏まえ、「再掲」のないよう指標を調整した。 ・(大貫委員) 小売りに限定する必要があるのか。飲食業やサービス業の店舗も対象ではないか。 →産業分類では「小売り」の中に飲食業やサービス業も含まれたものとなっている。 ・(葭原委員) 基本的な考え方から転用して「市民サービスの提供と都市機能の充実」とするのはいかがか。 ・(鈴木委員) 将来目標指標として、「都市機能誘導区域における小売り事業所数の増加」だと違和感がある。「生活サービスの質を高める」とはどのような事なのかを考えると、新サービスの開始が求められているのではなく、「日常生活で必要となる行為に時間的ゆとりがあると感じられる」事なのではと思う。これは「行政サービス」「日常の買い物」「移動」等あらゆる事に対して言えると思う。そのため、「生活関連の手続きやサービス利用における『時間的ゆとり』」が十分であると回答する市民の割合の増加」とするのはいかがか。ただ「生活サービスの質」と「小売事業所数」は言葉として直接結びつかないので、更なる深堀が必要だと思う。 →ご指摘を参考にしつつ、定量的な評価ができるかどうかや、方針とのつながり等を考慮し、左記の指標を設定した。
	<p>③私らしくいられる場や活躍できる場をつくる 【指標：これからも朝霞に住みたいと思う人の割合の増加(再掲)】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(寺川委員) 各テーマで将来目標指標を掲げるのであれば、「再掲」はない方が良いのではないか。 →ご指摘を踏まえ、「再掲」のないよう指標を調整した。 ・(葭原委員) 基本的な考え方から転用して「(将来目標指標)人と交流し居心地よく過ごせる場、活躍できる機会を創出」とするのはいかがか。 →ご指摘を参考にしつつ、定量的な評価ができるかどうかや、方針とのつながり等を考慮し、左記の指標を設定した。 ・(鈴木委員) 将来目標指標として、「これからも朝霞に住みたいと思う人の割合の増加」だと唐突感があるので、段階を踏み、「地域や社会において、自分の役割や居場所があると回答する市民の割合の増加」としてはいかがか。 →ご提案頂いた指標案を参考に、都市計画部門との関係性を加味し、一部文言を変更し「私らしくいられる場や居場所があると回答する市民の割合の増加」とした。
進捗管理指標	<p>①市街地と自然をつなぐ、選択肢のある住環境を整える 【指標：都市公園の整備水準：2.13㎡/人→2.64㎡/人】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(鈴木委員) 指標が唐突だと思う。 ・(葭原委員) 「居住誘導区域内の人口割合」「生産緑地・特定生産緑地制度の指定面積」(自然と利便性なので2指標から絞れていない)とするのはいかがか。 <p>→ご指摘を参考にしつつ、都市計画部門が主体的に進捗管理できる指標であることや、将来目標指標とのつながり等を考慮し、左記の指標を設定した。</p> <p>②暮らしを支える生活サービスの質を高める 【指標：駅周辺の地区計画により増加した店舗・事業所数(1階のみ)：0件→8件】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(葭原委員) 「暮らしを支える生活サービスの質を高める」または「買物難民・介護難民・待機児童の減少、孤独死数の減少」(適当な指標候補がなく、あると良い程度)としてはいかがか。 <p>→ご指摘を参考にしつつ、都市計画部門が主体的に進捗管理できる指標であることや、将来目標指標とのつながり等を考慮し、左記の指標を設定した。</p> <p>③私らしくいられる場や活躍できる場をつくる 【指標：官民連携により活用される公共空間の個所数：2箇所→4箇所】に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(鈴木委員) 指標が唐突だと思う。 ・(葭原委員) 「公共空間を活用したイベントの実施件数」とするのはいかがか。 <p>→ご指摘を参考にしつつ、都市計画部門が主体的に進捗管理できる指標であることや、将来目標指標とのつながり等を考慮し、左記の指標を設定した。</p>

※全テーマの評価指標に対する前回都計審でのご意見とその対応

3月都計審時点での評価指標に対するご意見と対応（青字）

- ・（高橋委員）進捗管理指標には、今後5年間で力を入れていく取組に関する指標を設定しているようだが、それら指標の達成が「将来目標指標」及び「市民満足度指標」の達成に寄与するのかわかりにくい。また、地域ごとの具体的な取組の進捗は市民の関心が高いところ。しっかり進捗を把握して地域にフィードバックしてもらいたい。
⇒3つの指標の関係性を改めて意識して指標を再設定した。指標のモニタリングの中で地域ごとの状況を把握し、都市計画審議会での報告やイベント等を通じて状況を市民と共有していきたいと考えている。
- ・（大橋委員）進捗管理指標の目標値が全体的に低いように感じる。
⇒ご指摘を踏まえ目標値の設定を再検討する。
- ・（田中委員）都市計画マスタープランは20年後の姿を計画するという考え方が基本だが、5年後という中期的な目標とする指標を取り入れる考え方が良いと思う。進捗管理の指標の数について、内容の充実が進めば、方針実現に向けた具体的な取組が明確になると思う。参考資料2で多くの指標候補一覧を整理されているので、これから5年間で市として力を入れて取り組む指標（または施策）を、例えば「将来目標指標」毎であったり、「取り組みの柱」毎であったり、複数ピックアップするのはいかがか。
⇒ご指摘を踏まえ、市民へのわかりやすさから、将来目標指標と進捗管理指標は対の整理とし、将来目標の達成のための主な取組をモニタリングできる指標（進捗管理指標）の事務局案を選定した。
- ・（寺川委員）1つの「進捗管理指標」で「将来目標指標」を達成するのは難しいと思う。そのため、P8以降の各テーマの方針に対応した指標を示した図においても、P7に記載の『方針に基づく基本的な考え方』ごとに1つの指標では、テーマに含まれる取組全ての評価として不足することが想定されるため、総合計画や個別計画等の指標も活用し、総合的な評価を行います。」との趣旨が伝わるようにすることで、指標が1つでないことを理解してもらえるのではないかと。
⇒ご指摘を踏まえ、本編の表現を見直しする。
- ・（葭原委員）取組の柱は42個あるが、指標はせいぜい15個だと思う。
⇒市としても同様に考えており、市民へのわかりやすさから、将来目標指標と進捗管理指標は対の整理としたい。進捗管理指標は将来目標の達成のための主な取組を適切にモニタリングできる指標として、皆さんと意見交換しながら選択していきたい。